第 1 章

はじめに

1.1 システム概要

Windows版辞書ブラウザ (Electronic Dictionary Browser for Windows以下，EDBroW と呼ぶ) は，Microsoft Windows 3.1上で動作する，EDR 電子化辞書のブラウジングシステムです．

EDBroW は，以下のような特徴を持っています．

- CDROM によりテキスト形式で提供される EDR 電子化辞書を，専用の辞書トランスレータによりパソコン上から検索できる形に形式変換します．また，変換された辞書を検索するライブラリも提供しますので，これをパソコン上での EDR 辞書検索 (応用システムなど) に利用することができます．
- すべての辞書を直接検索できるだけでなく，ある辞書の検索結果をもとに，他の辞書を関連検索することが可能です．
- EDR 電子化辞書の特徴の一つである概念辞書を使った，複合検索が可能です．すなわち，ある概念が，概念体系上でどのような位置にあるかを表示する「上位概念検索」や，概念記述と概念体系の継承機能を利用して，特定の 2 概念間にどのような概念関係が成り立ち得るかを調べる「可能関係子検索」が利用できます．
- 辞書の検索結果を，「ユーザ情報」としてバッファに取り込むことができます．取り込まれた個々の辞書データは編集することが可能であり，また，各辞書データ各々に対して，参照情報，覚書情報を付加することができます．ユーザ情報は，ひとまとめにしてファイルに保存することが可能です．

1.2 システム構成

図1.1に，システム構成を示します．

EDR 電子化辞書はテキスト形式で配布されます．これを，EDBroW から利用できる形式 (システム辞書) に変換する必要があります．このために用意されているのが，辞書トランスレータです．辞書トランスレータは，UNIX ワークステーション，または Windows環境下で，オフラインで動作します．

辞書の変換方法については，第 3 章を参照して下さい．

EDBroW の基本機能は，システム辞書の検索です．Windows上に実現されている検索用インタフェースから，辞書検索ライブラリを呼び出し，システム辞書を検索します．検索結果は，表示用インタフェースにより表示されます．

EDBroW のもう一つの機能は，辞書レコードの取り込みと編集，保存などの機能です．EDBroW では，辞書検索の結果をシステムの内部領域に複数取り込むことができます．この取り込まれた辞書レコードのセットに，キーワードを付けた一まとまりのことを，ユーザ情報と呼びます．

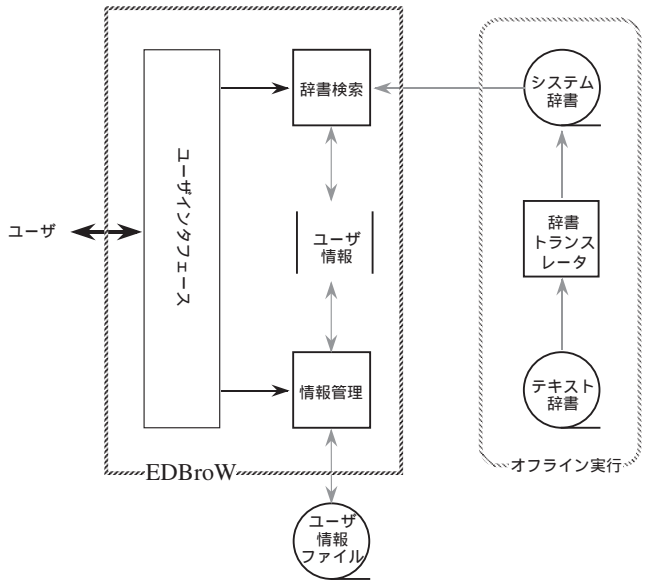

図 1.1 システム構成

ユーザ情報は，以下のような目的で利用することができます．

- 辞書の検索結果をユーザ情報として保存し，これをもとに，他の辞書の関連項目を検索する．
- 辞書データにエラーがある場合，ユーザ情報中で修正したデータを保存しておき，これをフィードバック情報として辞書の改良に利用する．
- あるテーマに関連する辞書情報をまとめて保存する．

EDBroW では，上記の機能を実現するため，ユーザ情報レコードの変更 / 削除 / コピー機能や，他のレコードに対する参照情報の付与機能，レコード自体への覚書情報の付与機能などを有しています．また，ユーザ情報は，ファイルに保存したり，ファイルから読み込むことも可能です．

1.3 動作環境

パソコンにおけるシステムの動作環境は，以下の通りです．

ハードウェア

本体　Microsoft Windows 3.が動作するもの
（CPU: 486DX2 以降を推奨）
メモリ　8MB以上（16MB以上を推奨）
HDD　空き領域最大 500MB（作成する辞書の構成により異なる）
CDROM ドライブ

または UNIX ワークステーション上のファイルを取得 / 利用できる環境

ワークステーション上で辞書を構築する場合には，それをパソコン上で利用

する手段 (ftp などで取得できる，あるいは NFS マウントできる) が必要です．そうでない場合には，パソコン上で CDROM を利用できる環境が必要となります．

ソフトウェア

Microsoft Windows 3.1
Microsoft Visual C++ 1.0 Professional Edition(ソフトウェア構築を行う場合にのみ必要）

また，ワークステーション上のツールは，以下の環境で動作確認を行っています．

ハードウェア

本体	Sun SparcStation SS10
メモリ	32MB
OS	SunOS 4.1.3+ JLE 1.1.3 (JLE はなくても良い)
HDD	空き領域最大 500MB（作成する辞書の構成により異なる）

ソフトウェア

SunOS 4.1.3附属の C コンパイラ もしくは gcc 2.5.8
（ソフトウェア構築をする場合にのみ必要）
※ SparcStation SS10+ Soralis2.3でも動作を確認しています

辞書のサイズ，作業に必要な領域等については，「第 4 章 辞書構築手順」を参照して下さい．

1.4 用語，表記法の定義

以下に，本マニュアルにおける基本的な用語，表記法について解説します．なお，Windowsの基本的な操作についてはここでは触れません．詳しくは，Windowsのマニュアル等を参照して下さい．

1.4.1 用語

操作

クリック	EDBroW では，クリックはすべてマウスの左ボタンを使います．
コンボボックス	通常のテキスト入力も可能ですが，テキストボックスの右側にある【↓】ボタンをクリックすると，入力可能な文字列の一覧が表示され，マウスで選択することにより入力が可能です．EDBroW では，品詞，連接情報，概念識別子，概念関係子などの入力にコンボボックスを利用しています．
リストボックス	EDBroW では，辞書検索結果の表示のほとんどに，リストボックスを利用しています．辞書の種類により，リストボックスの動作が異なります．詳しくは第 4 章を参照して下さい．

ブラウザに固有の用語

検索キー　辞書を検索する際に，最低一つは入力しなければならないキーです．複数指定することも可能です．検索キーは，システム辞書中に作成されているインデックスに対応します．各辞書の検索キーについては，第４章または第７章を参照して下さい．

フィルタキー　検索キーの補助として，検索結果の絞り込みを行う際に利用可能なものです．各辞書によってキーの種類が異なります．詳しくは第４章，第７章を参照して下さい．

レコード　一つの語および一つの概念に対応するデータの単位です．EDR 電子化辞書では，一つの単語に対して複数のレコードが存在することが多くあります．

なお，辞書検索の結果表示の際のデータ単位を，「辞書レコード」と呼び，これがユーザ情報に取り込まれた際のデータ単位を，「ユーザ情報レコード」あるいは単に「レコード」と呼びます．

フィールド　辞書レコードや，ユーザ情報レコード中の一つの情報（例えば単語辞書レコードの単語見出し）のことをフィールドと呼びます．

不変化部分　単語において，規則変化語が語形変化する場合の，純粋に文字列としての不変化部分であって，必ずしも語根を意味しません．たとえば，'wife/wivesは規則変化として扱われており，その不変化部分は　'wi' です．これに対して，規則変化部分の基本形（終止形・単数形・現在形など）のことをEDBroW では「語尾」と呼びます．また，「語尾つき」とは，'不変化部分＋語尾の文字列' を意味します．

例

単語（語尾つき）	不変化部分	語尾
wife	wi	fe
come	com	e
引く	引	く

始点 / 終点　概念記述レコードは，以下のような形式で記述します．

〈概念識別子１〉−〈関係子〉→〈概念識別子２〉

ここで，概念識別子１のことを「始点側」，概念識別子２のことを「終点側」と呼びます．始点 / 終点のそれぞれの意味づけは，関係子によって異なりますが，例えば関係子 "agent"の場合には，始点側が動作に相当する概念，終点側がその動作を行う主体に相当する概念となります．

概念体系レコードの場合にも同様の表記を使います．この場合，始点側が下位概念，終点側が上位概念となります．

また，共起辞書の「表層共起情報」においても，同様の表記を用いますが，

この場合には，受け側 / 係り側と呼びます．なお共起辞書においても，意味情報では，始点 / 終点という表現を使いますが，表層の受け側 / 係り側と，意味情報の始点 / 終点は，必ずしも対応しません．

センシティブ　選択可能なボタン / メニュー，入力 / 参照可能なテキストボックスなどを "センシティブである" といいます．逆に，選択できないボタン / メニュー，入力 / 参照できないテキストボックスなどを "センシティブでない" といいます．センシティブでないものは，淡色表示となります．

1.4.2 表記法

メニュー　EDBroW は，メインウィンドウのメニュー操作によるコマンド入力で動作します．このコマンド入力を以下のように記します．

[ファイル] – [終了]

これは，トップの [ファイル] メニューをマウスで選択し，メニュー一覧の中から，[終了] をマウスで選択することを意味します．

さらにサブメニューがある場合には，

[ユーザ情報編集] – [新規作成] – [単語レコード作成]

のように表記します．

ボタン　ダイアログボックスなどで利用するボタンは，【OK】のように表記します．